

2016年度上期 決算説明会資料



株式会社フジクラ

2016年10月28日

取締役常務執行役員 伊藤 哲

I.決算概要説明

取締役社長 伊藤 雅彦

II.20中期 初年度

16年度上期総括と下期取組み

2016年度 第2四半期(上期)決算

株式会社フジクラ

2016年10月28日

目次

1. 2016年度上期決算概要及び年度予想
2. セグメント情報
3. 株主還元

1. 2016年度上期決算概要及び年度予想

2016年度上期決算概要及び年度予想

(単位:億円)

	2015年度			2016年度			2016年度 (公表値5.10)	
	上期	下期	年度	上期	下期 予想	年度 予想	上期	年度
売上高	3,452	3,333	6,785	3,052	3,248	6,300	3,300	6,900
営業利益	170	156	326	138	132	270	120	280
営業利益率 (%)	4.9	4.7	4.8	4.5	4.1	4.3	3.6	4.1
持分法投資損益	▲2	▲27	▲29	0	5	5	4	11
経常利益	142	104	246	119	121	240	105	250
親会社株主に帰属する 当期純利益	85	28	113	18	82	100	50	150
1株当り当期純利益 (円)	27.77	9.21	36.98	6.21	27.97	34.11	17.05	51.17
1株当り配当 (円)	4.00	4.00	8.00	5.00	5.00	10.00	5.00	10.00
為替換算レート (JPY/ USD)	121.88	118.50	120.16	105.21	100.00	—	110.0	110.0
銅ベース (千円/トン)	741	613	677	544	520	—	550	550

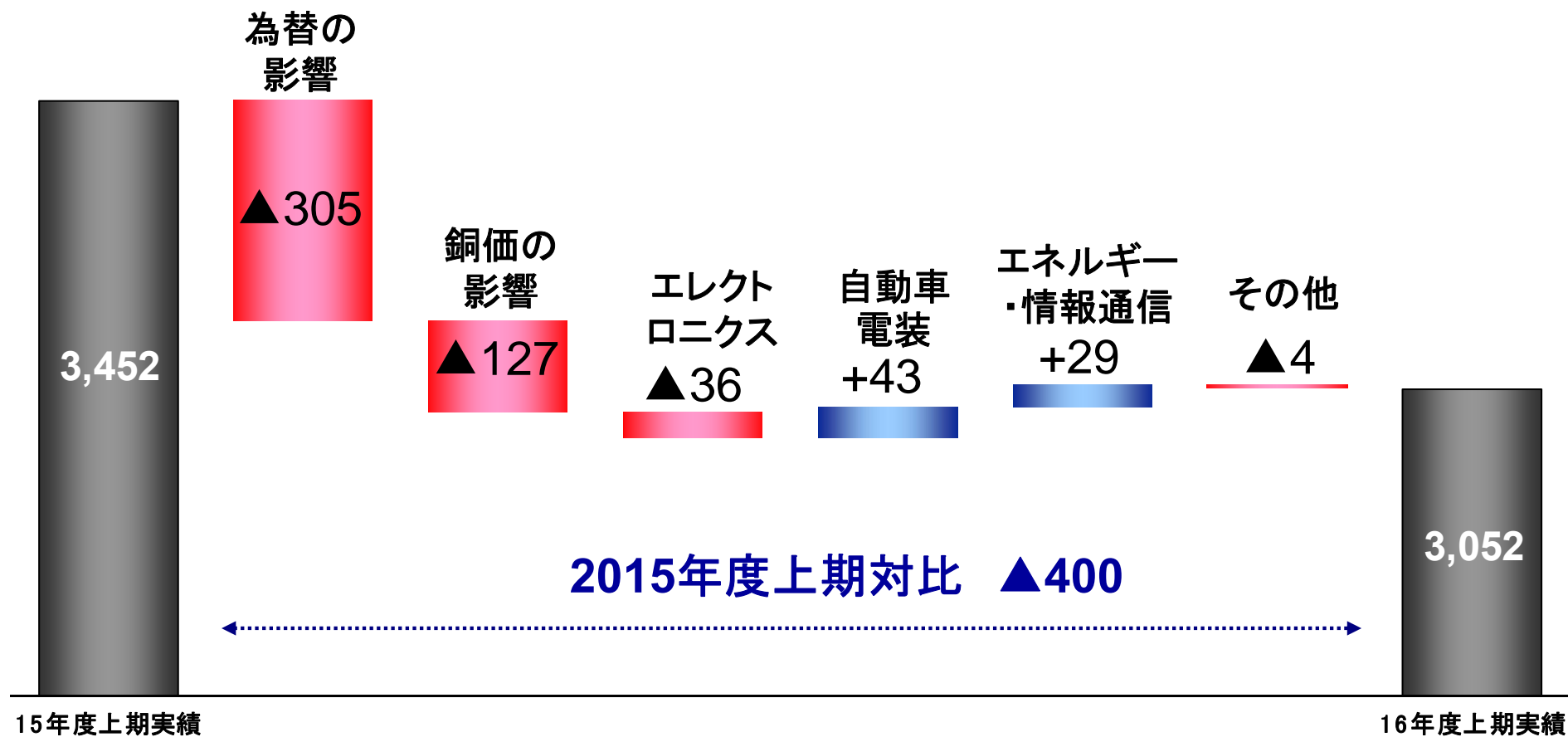
2016年度上期決算概要及び年度予想

- 売上高は、円高と銅価下落の影響等により前年同期比減収。
- 営業利益、経常利益は、円高の影響により前年同期比減益。
- 当期純利益は、営業利益、経常利益の減少に加え、特別損失で事業構造改善費用等、税金費用で過年度法人税等の計上により、前年同期比で減益。
年度予想についても、減益を見込む。
- 年度予想の営業利益は、円高の影響、スマートフォン向け需要の減少、建販・市販市場の低迷等により、前回公表値対比で減益を見込むが、品種構成の改善に加えて、エレクトロニクスカンパニーを中心とした固定費の変動費化等の内部努力により、営業利益率では前回公表の4.1%から4.3%にアップを見込む。

2016年度上期 売上高の増減要因(前年同期比)

売上高

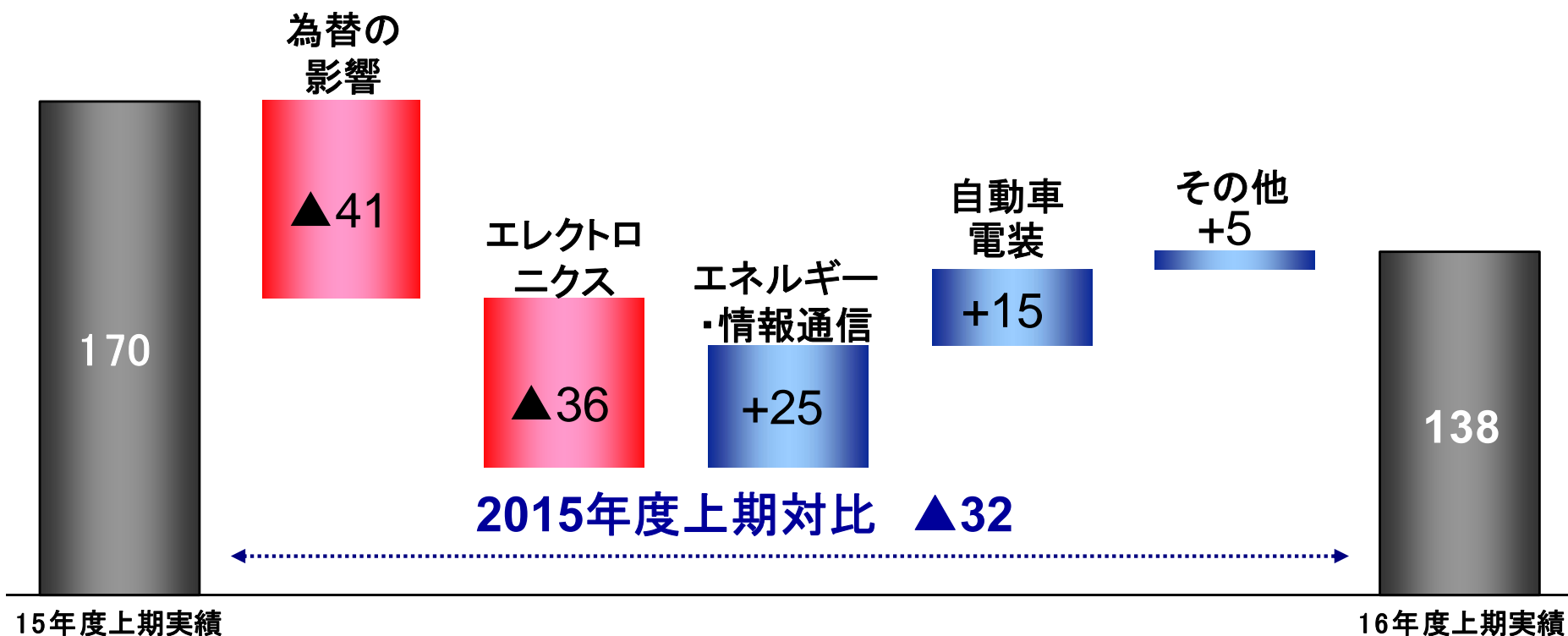
(単位:億円)



2016年度上期 営業利益の増減要因(前年同期比)

営業利益

(単位:億円)



2016年度上期 特別損益及び税金項目

特別損益

(単位:億円)

	2015年度			2016年度 上期
	上期	下期	年度	
営業利益	170	156	326	138
持分法投資損益	▲2	▲27	▲29	0
経常利益	142	104	246	119
特別利益	5	22	27	1
特別損失	15	86	101	31
税引前当期利益	133	38	171	90
税金費用	42	4	46	57
非支配株主に帰属 する当期純利益	5	7	12	15
親会社株主に帰属する 当期純利益	85	28	113	18

事業構造改善費用17億円
訴訟和解金11億円

タイの拠点で過年度法人税等
27億円費用計上

B/S 主要項目(1)

(単位:億円)

	16年3月末	16年9月末	増減
〈資産〉	5,526	5,554	+28
流動資産	2,824	2,904	+80
現金及び預金	349	370	+20
受取手形及び 売掛金	1,438	1,434	▲4
たな卸資産	792	842	+49
固定資産	2,702	2,650	▲52
有形固定資産	1,799	1,779	▲20
無形固定資産	212	172	▲40
小計	2,012	1,951	▲61
投資その他の資産	689	698	+8

為替換算の影響▲299億円
円高及び新興国通貨安の影響

	16/3末	16/9末
TB	3.20	2.91
C元	17.41	15.16
ドル	112.62	101.05

季節的要因によりエレクトロニクス関連で増加

主に為替換算の影響▲110億円
による減少

設備投資	205億円
減価償却費	124億円
のれん償却	17億円

B/S 主要項目(2)

(単位:億円)

	16年3月末	16年9月末	増減
負債純資産合計	5,526	5,554	+28
(内数 自己株式)	(▲253)	(▲45)	(+208)
〈負債〉	3,346	3,622	+275
支払手形及び買掛金	737	742	+4
有利子負債	1,996	2,297	+301
その他流動負債	398	385	▲13
〈純資産〉	2,179	1,932	▲247
株主資本	1,936	1,877	▲58
(内数 自己株式)	(▲253)	(▲45)	(+208)
その他の包括利益 累計額	49	▲131	▲181
非支配株主持分	194	186	▲7

設備投資資金及びエレクトロニクスを中心とした運転資金増加に加え、事業構造改善、自己株取得等で増加

自己株消却 65百万株
自己株取得 12百万株

為替換算調整勘定の減少▲184億円

2. セグメント情報

セグメント別業績推移及び予想

(単位:億円)

売上高					営業利益及び営業利益率			
セグメント	15年度 上期実績	16年度 上期実績	増減	16年度 下期予想	15年度 上期実績	16年度 上期実績	増減	16年度 下期予想
エネルギー・ 情報通信カンパニー	1,857	1,625	▲231	1,770	76 4.1%	75 4.7%	▲0 0.6%	60 3.4%
エレクトロニクス カンパニー	848	718	▲130	756	70 8.3%	26 3.6%	▲43 ▲4.6%	37 4.9%
自動車電装 カンパニー	672	638	▲33	645	6 0.8%	15 2.4%	9 1.6%	18 2.8%
不動産 カンパニー	54	50	▲3	51	28 51.7%	26 52.1%	▲1 0.5%	18 36.0%
その他	21	20	▲1	26	▲9	▲5	4	▲2
合計	3,452	3,052	▲400	3,248	170 4.9%	138 4.5%	▲32 ▲0.4%	132 4.1%

※16年4月1日の一部の組織変更に伴い、15年度の数字を組替再表示しております。

エネルギー・情報通信カンパニー

- 16/上期は、円高及び銅価下落の影響により減収となったが、光ファイバ・光部品等の好調、品種構成の改善で営業利益率は上昇。
- 16/下期は、季節要因でエネルギーが増収となるものの、円高の影響と品種構成の変化で営業利益率が低下。

(単位: 億円)

売上高と営業利益率



エネルギー

- 16/上期は、銅価下落の影響により減収。
- 16/下期は、国内の建設電販の季節的要因や、ビスカスからの事業移管により増収。

情報通信

- 16/上期は、光ファイバ・光部品等が好調だったが、為替の影響で減収となった。
- 16/下期は、上期並みを見込む。

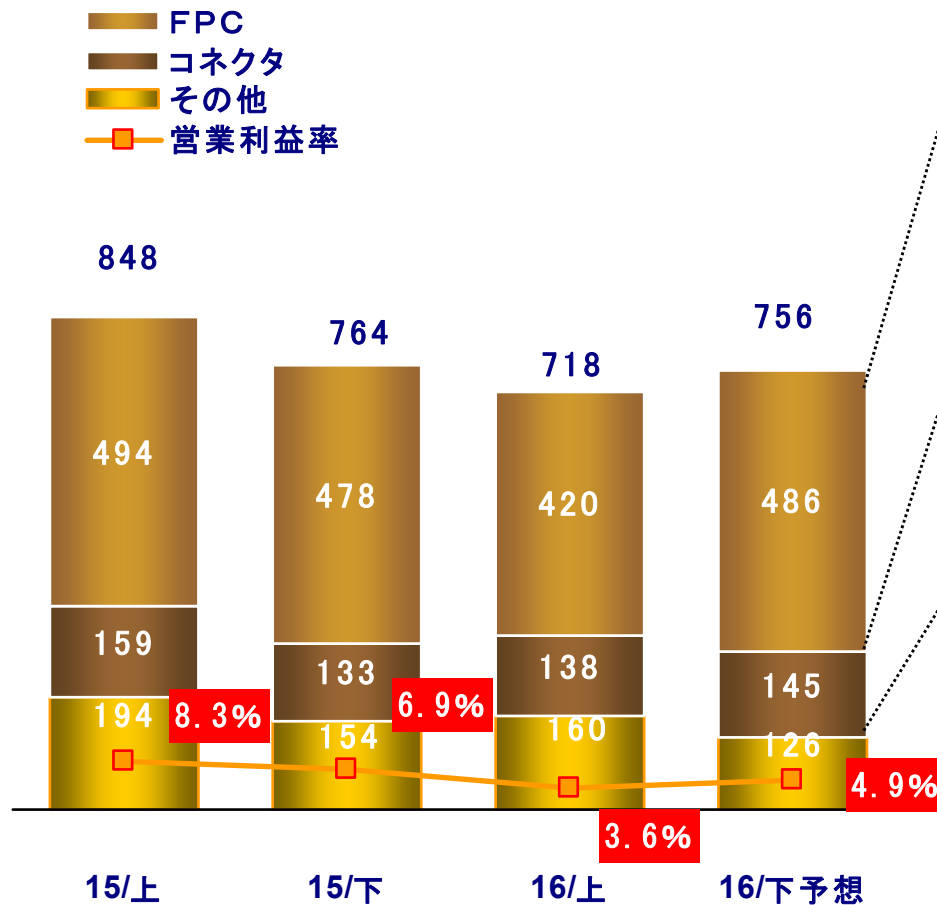
コメント 上段: 上期実績、前年同期比
下段: 下期予想、上期実績対比

エレクトロニクスカンパニー

- 16/上期は、主に為替の影響及びスマートフォン向けで需要が落ち込み減収となったが、固定費の変動費化等に取り組み営業利益は確保。
- 16/下期は、FPCを中心に季節要因によるスマートフォン向け需要増で増収増益となる見込み。

(単位: 億円)

売上高と営業利益率



FPC

- 16/上期は、為替の影響及びスマートフォン向け需要が減少し減収。
- 16/下期は、季節要因によるスマートフォン向け需要増で増収を見込む。

コネクタ

- 16/上期は、スマートフォン向け需要が減少し減収。
- 16/下期は、季節要因によるスマートフォン向け需要増で増収を見込む。

その他

- 16/上期は、為替の影響や品種構成の変化により減収。
- 16/下期は、品種構成の変化により減収を見込む。

コメント 上段: 上期実績、前年同期比
下段: 下期予想、上期実績対比

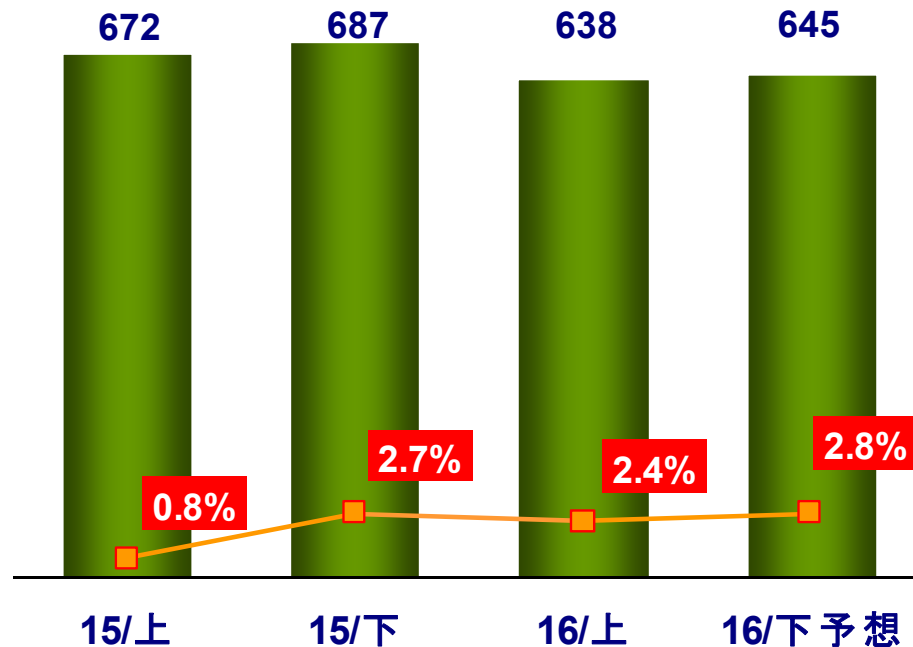
自動車電装カンパニー

- 16/上期は、為替の影響により減収となったが、新車種の立上げや構造改革による固定費削減効果により増益。
- 16/下期は、欧州においてルーマニアからウクライナ/モルドバへの製造移管が進みコストが改善され、増益を見込む。

(単位: 億円)

売上高と営業利益率

■ 営業利益率



自動車関連

- 16/上期は、為替の影響を除くと、好調な北米市場や欧州における新車種の立ち上げにより増収。アジア地区の構造改革により増益となった。
- 16/下期は、売上高は上期並みを見込むが、全体的にコスト改善が進み、増益を見込む。

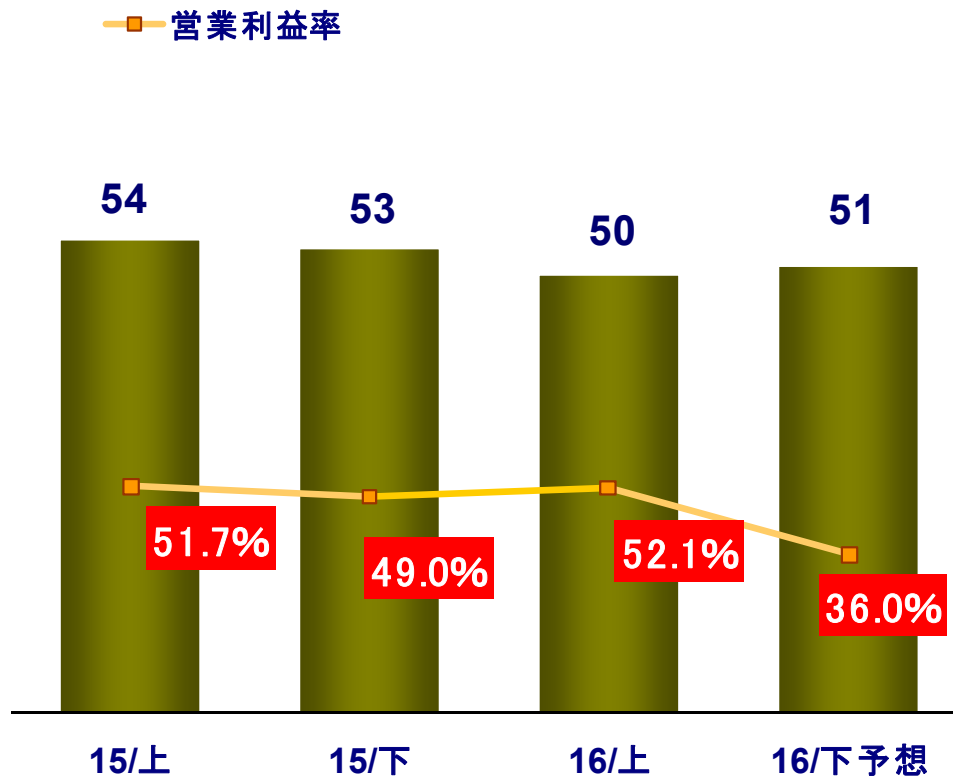
コメント 上段: 上期実績、前年同期比
下段: 下期予想、上期実績対比

不動産カンパニー

■ 不動産賃貸収入が引き続き収益に貢献

(単位: 億円)

売上高と営業利益率



不動産

- 16/上期は、引続き安定して収益に貢献。
- 16/下期は、建物取得に係る一時費用で減益を見込む。

コメント 上段: 上期実績、前年同期比
下段: 下期予想、上期実績対比

設備投資及び減価償却費

(単位:億円)

	2015年度		2016年度 上期	2016年度 予想 (10.28)	2016年度 予想 (5.10)
	上期	年度			
設備投資	132	319	205	420	470
(内製造事業)	131	313	202	330	380
(内不動産事業)	0	6	2	90	90
減価償却費	133	266	124	290	300
(内製造事業)	124	248	116	270	280
(内不動産事業)	8	17	8	20	20

※リース含む

有利子負債、金融収支、フリーキャッシュフロー

(単位:億円)

	2015年度			2016年度
	上期	下期	年度	上期
有利子負債	1,972	1,996	1,996	2,297
金融収支	▲8	▲5	▲13	▲6
フリーキャッシュフロー	76	62	138	▲185

フリーキャッシュフロー＝営業活動によるキャッシュフロー＋支払利息＋投資活動によるキャッシュフロー

3. 株主還元

利益還元

■ 20中期基本方針 配当性向 20%以上

■ 2016年度予想

◆ 配当10.0円/株(中間5.0円/株、期末5.0円/株、29億円)

15年度実績 8.0円/株(中間4.0円/株、期末4.0円/株)

(15年度対比2.0円増配)

◆ 自己株式の取得 12百万株/65億円(16年度上期実績)

16年度配当性向 28.6%

16年度総還元性向 107.6%

20中期 初年度 16年度上期総括と下期取組み

“変わろう、そして未来につなげよう！20中期”

株式会社フジクラ
取締役社長 伊藤 雅彦

2016年10月28日

➤引き続き「稼ぐ力」を 維持・強化

2020年度到達目標

- 営業利益率 7.0%以上
- 売上高 9,000億円
- ROE 10%以上
- D/Eレシオ 40:60 (0.66倍)

目次

1. 16年度上期決算概要と通期予想
2. 2020中期経営計画重点施策の進捗
3. 17年度に向けた下期取組み
4. 利益配分について

1. 16年度上期決算概要と通期予想

(1) 2016年度上期決算概要及び年度予想

(単位：億円)

	2015年度			2016年度			2016年度 (公表値5.10)	
	上期	下期	年度	上期	下期 予想	年度 予想	上期	年度
売上高	3,452	3,333	6,785	3,052	3,248	6,300	3,300	6,900
営業利益	170	156	326	138	132	270	120	280
営業利益率 (%)	4.9	4.7	4.8	4.5	4.1	4.3	3.6	4.1
持分法投資損益	▲2	▲27	▲29	0	5	5	4	11
経常利益	142	104	246	119	121	240	105	250
親会社株主に帰属する 当期純利益	85	28	113	18	82	100	50	150
1株当たり当期純利益 (円)	27.77	9.21	36.98	6.21	27.97	34.11	17.05	51.17
1株当たり配当 (円)	4.00	4.00	8.00	5.00	5.00	10.00	5.00	10.00
為替換算レート (JPY/ USD)	121.88	118.50	120.16	105.21	100.00	—	110.0	110.0
銅ベース (千円/トン)	741	613	677	544	520	—	550	550

(2) 2016年度上期決算概要及び年度予想

- 今上期は、厳しい環境下ではあったが、諸施策により期初の予想を上回る営業利益・経常利益を確保した。一方、当期利益は過年度の要因により、未達となった。
- 通期では、売上高は、為替の影響と大口顧客の需要減にて期初予想に対し大きく減少予想も、営業利益は諸施策により落ち込みを抑え、営業利益率は期初予想4.1%に対し、4.3%を予想。

規模を追わず、収益率を重視

円高や大口顧客の需要が不透明といった環境下ではあるが、稼ぐ力を維持・強化し、営業利益率を確保する。

2. 2020中期経営計画重点施策の進捗

(1) 2020中期経営計画重点施策と進捗

顧客価値創造型企業として
「高い収益力」と「強い新陳代謝力」を両輪に
将来性ある、未来に続く会社へ！

戦略顧客の深耕

- 戦略顧客を深耕し、
 - 更なる事業の成長を図る。
 - 新たな事業機会を捉える。

- ①海外大手通信会社へのEPC・サービス事業強化
- ②戦略商品(SWR/WTC)投入による海外重点顧客への展開

新規事業創出のスピードアップ

- 新規事業推進の体制強化
- 重点分野
 - 自動車関連
 - 産業用機器
 - 医療機器

- ファイバレーザ事業の取組み
- より競争力を強化した製品の投入
 - マーケティング強化

オープンイノベーション

- ポートフォリオ、バリューチェーンのミッシングピースを補い、新たな顧客価値を産む。
- 技術開発、事業開発、事業の成長のスピードアップ

- NTT・北海道大学との共同研究
- 伝送容量が従来比100倍の多コア光ファイバ
 - 2020年代の実用化目指す

経営改革 事業構造改革

- コーポレートガバナンス・コード対応
- 多様化した事業に対する意思決定の質・スピードの向上
- 経営基盤の強化

- ①国内電線事業構造改革
 - ビスカヤス社再編
 - FDC社事業統合
- ②経営改革

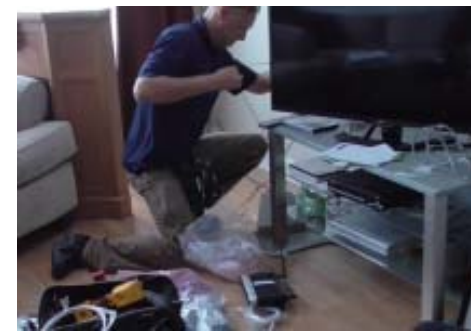
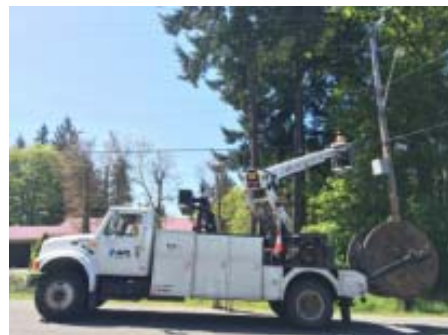
(2) 戦略顧客の深耕①

▶ 海外大手通信会社へのEPC・サービス事業強化

○ 通信インフラ資材の製造・販売という枠を超えたビジネス展開



FTTH工事・製品を統合し、フルターンキーとして、コスト・品質・スケジュール・安全・ブランドを一括管理、提供

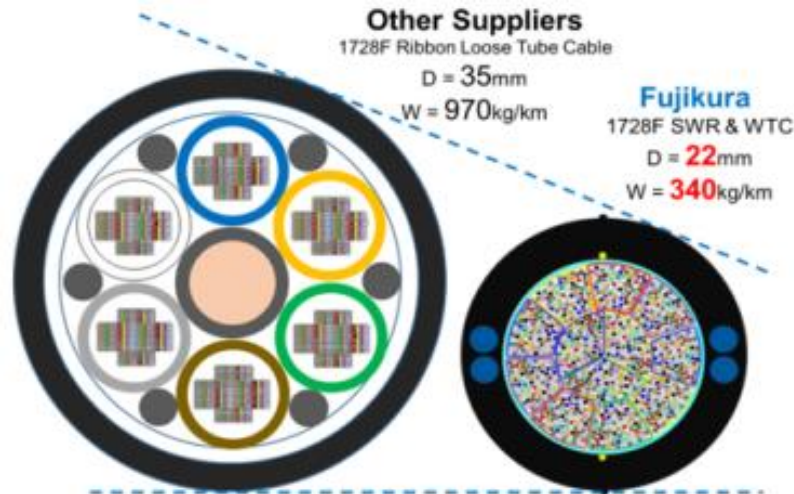


(3) 戦略顧客の深耕②

➤ 戦略商品投入による海外重点顧客への展開 (Spider Web Ribbon/Wrapping Tube Cable)

○ 海外、特に北米において徐々に技術の認知、市場浸透が進む

光ケーブルの断面比較



外径で 37%、64%の軽量化
従来品の1728心ケーブル比

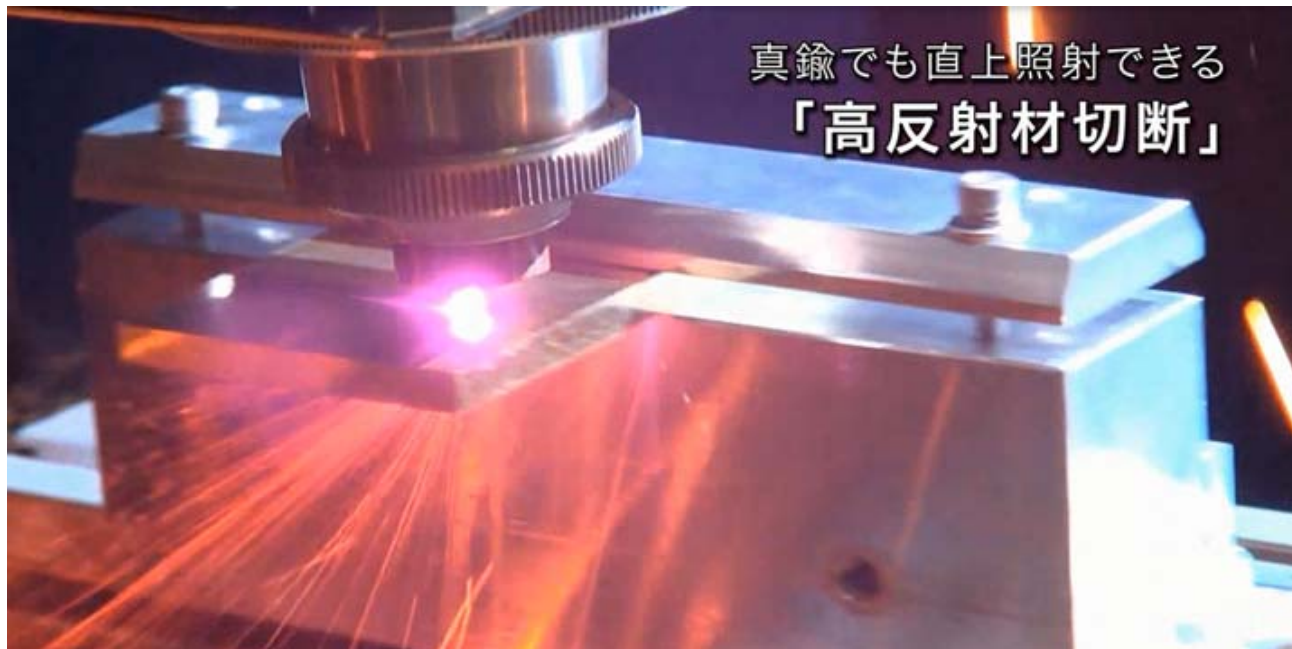
実現のためには高品質な
光ファイバを開発



(4) 新規事業創出のスピードアップ

➤ ファイバレーザ事業の取組み

- より競争力を強化した製品の投入
- 中国/欧州へのマーケティング拡大・人員配置
来年以降の早期黒字化目指す

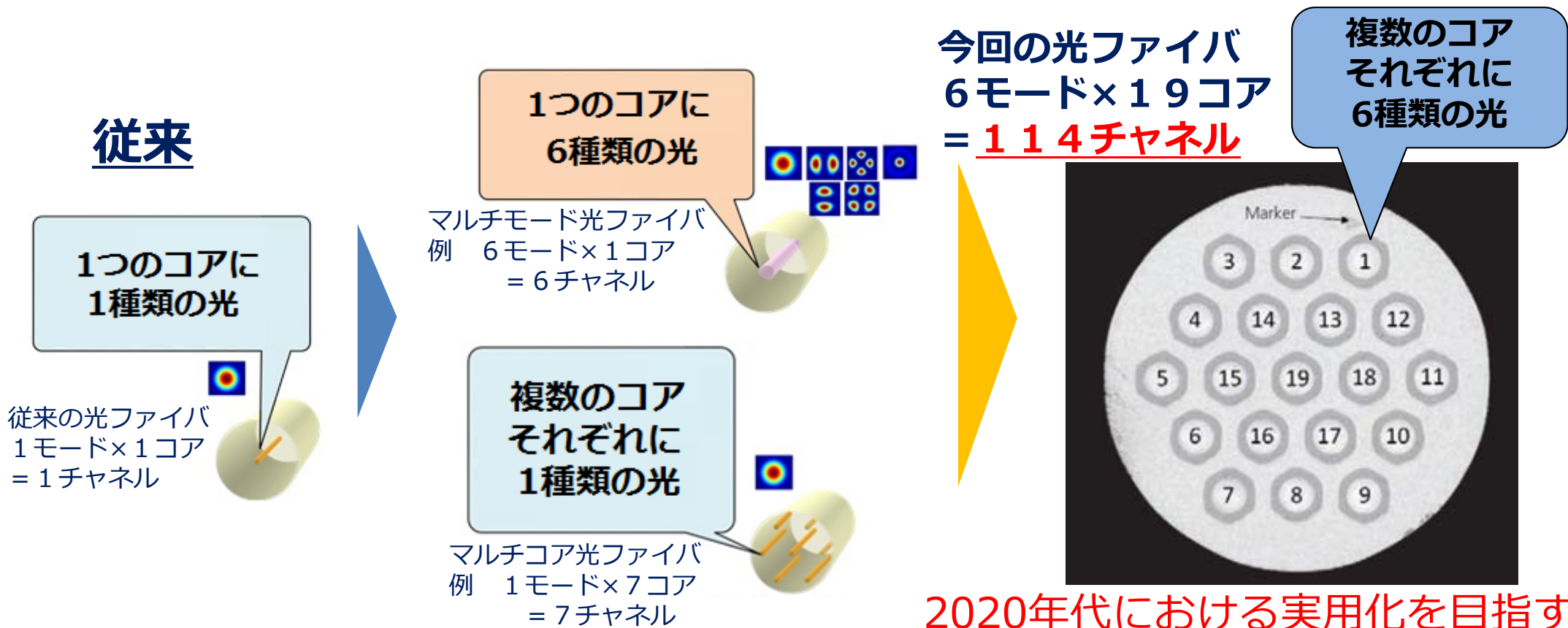


(5) オープンイノベーション

➤ NTT・北海道大学との共同研究

～世界最高密度の光ファイバ開発～

- 従来の光ファイバの100倍以上となる伝送容量
ハイビジョン映画数千本の情報を1秒で転送可能に



(6) 事業構造改革・経営改革①

➤ 国内電線事業構造改革

- (株)ビスキャス再編
再編により送配電事業をフジクラ本体へ移管
- (株)フジクラ・ダイヤケーブル(FDC)統合
4月から製販統合会社としてスタート
合併先とのシナジーの発現

**国内電線事業の安定した収益確保のための、
さらなる構造改革を全社で推し進める**

(7) 事業構造改革・経営改革②

➤ 経営改革

○ ガバナンス改革

- 業務執行取締役への大幅な権限移譲による意思決定のスピードアップ
- 取締役会の監督機能の強化による経営判断を支える体制づくり

⇒17年6月株主総会で監査等委員会設置会社に移行を検討中

○ 人事制度改革

事業環境・就労環境の変化に合わせた制度改革を検討

3. 17年度に向けた下期取組み

(1) 17年度に向けた下期取組み

➤ エネルギー・情報通信カンパニー

- 光ファイバ： 旺盛な世界全需への迅速な対応
- エネルギー事業：
 - EPC事業の強化
 - 国内電線事業の、さらなる構造改革の推進

➤ エレクトロニクスカンパニー

- 次年度モデルへの確実な対応

➤ 自動車電装カンパニー

- LCC（ウクライナ/モルドバ）製造拠点の確実な立上げ
- 中国民族系ビジネスの展開

17年度のさらなる成長に向けて活動を加速

4. 利益配分について

(1) 利益配分 基本方針

バランスを考えた利益の配分を実施

- 成長事業への重点投資（次の成長）
- 財務体質の改善（自己資本比率、D/Eレシオ）
- 機動的な自己株式の取得

一株当たり利益の向上

- 安定配当の実施

配当: 中間5.0円/株、期末5.0円/株を予定（合計10円/株）

顧客価値創造型企業として、
「高い収益力」と「強い新陳代謝力」を
両輪に、
将来性ある、未来に続く会社へ！



注記：本資料は16年度におけるフジクラの経営方針（意思）をまとめています。16年度の売上・利益等については、直近状況を織り込んだ市場判断、投入に関するフジクラの意思を定量化していますが、将来時点で事業環境の変化等により変わることがあります。

【2016年度 第2四半期 補足資料】

事業セグメント別 売上高・営業利益 推移

事業セグメント別 売上高 推移

単位:億円

	2015年度							2016年度					2016年度 公表値(5.10)
	1Q	2Q	3Q	4Q	上期	下期	年度	1Q実績	2Q実績	上期実績	下期予想	年度予想	上期予想
エネルギー事業部門	528	543	547	509	1,071	1,056	2,127	451	463	914	1,035	1,949	1,024
情報通信事業部門	397	388	388	365	785	753	1,538	352	359	711	735	1,446	738
エネルギー・情報通信 カンパニー	926	931	936	873	1,857	1,809	3,665	803	822	1,625	1,770	3,395	1,762
FPC	199	295	302	176	494	478	972	146	275	420	486	906	549
コネクタ	78	81	78	55	159	133	292	53	85	138	145	283	143
その他	98	96	82	72	194	154	348	78	81	160	126	285	136
エレクトロニクスカンパニー	376	472	461	303	848	764	1,612	277	442	718	756	1,475	828
自動車電装カンパニー	344	328	355	332	672	687	1,359	342	296	638	645	1,283	639
不動産カンパニー	27	27	26	27	54	53	107	25	25	50	51	101	50
その他	10	11	9	12	21	21	43	9	11	20	26	45	20
合計	1,684	1,768	1,787	1,546	3,452	3,333	6,785	1,456	1,596	3,052	3,248	6,300	3,300

事業セグメント別 営業利益 推移

エネルギー・情報通信 カンパニー	41	36	34	33	76	67	143	32	44	75	60	136	54
エレクトロニクスカンパニー	22	48	50	3	70	53	123	1	25	26	37	63	32
自動車電装カンパニー	7	△ 2	7	12	6	18	24	15	1	15	18	34	17
不動産カンパニー	14	14	13	13	28	26	54	13	13	26	18	45	25
その他	△ 5	△ 4	△ 3	△ 5	△ 9	△ 8	△ 17	△ 3	△ 2	△ 5	△ 2	△ 7	△ 9
合計	78	92	99	57	170	156	326	56	81	138	132	270	120

※16年4月1日の一部の組織変更に伴い、15年度の数字を組替再表示しております。

株式会社フジクラ